Subject / 科目	
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ
2017 年度カリキュラム	APS フィールド・スタディ
申請可能セメスター	3~7 セメスター*詳細は募集要項をご覧ください。
プログラム名	沖縄から考える戦争と平和 (総田 芳憲)

1. Program Title プログラム名	沖縄から考える戦争と平和															
2. Professor 担当教員	総田 芳憲															
3. Activity site 実習地	沖縄県															
4. Academic Year 開講年度	2018 冬															
5. Subject 科目	国際関係学 フィールド・スタディ															
6. Language 開講言語	日本語 / [実習で使用する場合がある言語]・日本語															
7. Credits 単位数	2 -セメスターの登録可能単位数の上限に含まれません。															
8. Overview プログラム概要	<p>沖縄は、太平洋戦争中の日本において最大規模の地上戦が展開された場所であり、島民の 4 分の 1 以上が死亡するという多大な犠牲を被った。敗戦後、日本は 1952 年に主権を回復したが、沖縄は 1972 年まで米国の統治下に置かれ、米軍の前線基地とされた。本土復帰後も、米軍基地は残されたままで、日本で最も米軍基地が集中しており、その重い負担と太平洋戦争中の経験が、沖縄県民とそれ以外の日本人との関係に濃い影を落としている。本プログラムでは、沖縄が置かれてきた状況に対する理解を深めることを通じて、戦争と平和の問題について再検討することを目的としている。</p>															
9. プログラムのねらい	<p>本プログラムの主な狙いは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 沖縄戦が起こった理由、被害が市民にまで拡大した理由を理解すること。 2. 戦後、沖縄が米国の統治下に置かれた理由、また、米軍統治下の沖縄の状況について理解すること。 3. 日本への復帰後も沖縄に米軍基地が集中している理由を理解し、基地集中が適当であるかどうかについて考察すること。 															
10. Participation Fee (Approx.) 参加費 (目安)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交通費(航空券・陸路)</td> <td>実費(自己手配)</td> </tr> <tr> <td>宿泊費</td> <td>実費(自己手配)</td> </tr> <tr> <td>現地交通費(7名参加の場合)</td> <td>¥16,700</td> </tr> <tr> <td>入館料</td> <td>¥3,400</td> </tr> <tr> <td>謝礼</td> <td>¥6,300</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>¥26,400</td> </tr> </tbody> </table>	項目	金額	交通費(航空券・陸路)	実費(自己手配)	宿泊費	実費(自己手配)	現地交通費(7名参加の場合)	¥16,700	入館料	¥3,400	謝礼	¥6,300	合計	¥26,400	<p>注: 上記参加費は目安であり、価格改定などで変動する可能性あり。</p> <p>[上記に含まれないもの]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 食費(実費) ➢ 現地交通費(全員での移動以外のもの)
項目	金額															
交通費(航空券・陸路)	実費(自己手配)															
宿泊費	実費(自己手配)															
現地交通費(7名参加の場合)	¥16,700															
入館料	¥3,400															
謝礼	¥6,300															
合計	¥26,400															
11. Recommended qualifications knowledge 履修の目安	<p>太平洋戦争中の沖縄に問題に関心を持っていること。 冷戦期の沖縄に関心を持っていること。 冷戦後の沖縄、特に、基地問題に関心を持っていること。</p>															

Subject / 科目	
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ
2017 年度カリキュラム	APM フィールド・スタディ
申請可能セメスター	3~7 セメスター*詳細は募集要項をご覧ください。
プログラム名	沖縄から考える戦争と平和 (総田 芳憲)

12. Standard of Completion 到達目標	1. 太平洋戦中の沖縄について理解を深める 2. 冷戦期の沖縄について理解を深める。 3. 冷戦後の沖縄、特に、基地問題について理解を深める。 4. 日米同盟を基軸とする日本の安全保障政策について理解を深める。																	
1. 授業方法 Teaching Method	<p>[事前授業]</p> <p>事前授業は3コマを予定。太平洋戦争中、冷戦期、冷戦後の3期における沖縄の状況について基礎的な知識を習得してもらう。</p> <p>[実習]</p> <p>沖縄本島において6日間の実習を行う予定。太平洋戦争中の沖縄について理解を深めるため、沖縄本島で、平和記念館などの施設、戦跡を訪問する。また、現地ガイドの方から説明を受けたりする。冷戦期、冷戦後の沖縄と米軍、日本政府との関係について理解を深めるために、資料館などの施設を訪問すると共に、基地の町を訪問し、そこで講話を聴く一方で、現地の人達に聞き取り調査を行う。</p> <p>[事後授業]</p> <p>事後授業は3コマを予定。実習を通じて、どういったことを考察したのか、一人一人発表してもらう。また、沖縄に在日米軍基地が集中していることは、安全保障戦略的に合理性があり、適当なことなのか、それとも不合理で是正されるべきことなのかについての見解を各人発表してもらい、教員と参加者全員で、討論を行う。</p> <p>[多文化協働学修に関する環境と手法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地実習中、ガイド、講師の方をはじめ、世代や育ってきた環境が異なる現地の方々と話す機会がある。 2. 少人数のフィールド・スタディであるため、現地実習中、履修者の間で意見交換をする機会が多い。全員での意見交換の時間も設けるが、現地での移動中や食事中など任意で意見交換を行う機会は沢山ある。 3. 事後授業において、発表と討論を通じて、履修者間での意見交換を行う。 																	
15. Schedule スケジュール	<p>[事前授業]</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1/9(水)</td> <td>4 限</td> <td>太平洋戦争中の沖縄</td> </tr> <tr> <td>1/16(水)</td> <td>4 限</td> <td>冷戦期の沖縄</td> </tr> <tr> <td>1/23(水)</td> <td>5 限</td> <td>冷戦後の沖縄</td> </tr> </tbody> </table> <p>注: 他の授業と重なっている参加者がいる場合、日程を再調整する可能性あり。授業の重複がある場合は、出来るだけ早く知らせること。</p> <p>[実習]</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>2/21(木)</td> <td>各自で那覇市に入り、中心部に宿泊。 注: この日より先に沖縄入りすることも可能。</td> <td>那覇市</td> </tr> <tr> <td>2/22(金)</td> <td>①沖縄県立博物館に9時集合。同館での沖縄の歴史学習(約2時間)(入館料410円) ②不屈館での瀬長亀太郎に関する講話、資料閲覧(約2時間)(入館料500円)</td> <td>那覇市 宜野湾市</td> </tr> </tbody> </table>			1/9(水)	4 限	太平洋戦争中の沖縄	1/16(水)	4 限	冷戦期の沖縄	1/23(水)	5 限	冷戦後の沖縄	2/21(木)	各自で那覇市に入り、中心部に宿泊。 注: この日より先に沖縄入りすることも可能。	那覇市	2/22(金)	①沖縄県立博物館に9時集合。同館での沖縄の歴史学習(約2時間)(入館料410円) ②不屈館での瀬長亀太郎に関する講話、資料閲覧(約2時間)(入館料500円)	那覇市 宜野湾市
1/9(水)	4 限	太平洋戦争中の沖縄																
1/16(水)	4 限	冷戦期の沖縄																
1/23(水)	5 限	冷戦後の沖縄																
2/21(木)	各自で那覇市に入り、中心部に宿泊。 注: この日より先に沖縄入りすることも可能。	那覇市																
2/22(金)	①沖縄県立博物館に9時集合。同館での沖縄の歴史学習(約2時間)(入館料410円) ②不屈館での瀬長亀太郎に関する講話、資料閲覧(約2時間)(入館料500円)	那覇市 宜野湾市																

Subject / 科目	
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ
2017 年度カリキュラム	APM フィールド・スタディ
申請可能セメスター	3~7 セメスター*詳細は募集要項をご覧ください。
プログラム名	沖縄から考える戦争と平和 (総田 芳憲)

		<p>③嘉数高台公園(普天間基地の展望など)、沖縄国際大学(米軍ヘリ墜落事件現場)でのガイド付き視察(約 3 時間)(ガイド料:各自 1,400 円)</p> <p>④首里城公園内の首里司令部壕跡(約 0.5 時間)(入園料:820 円)</p> <p>⑤2日目に学んだことの振り返り(約 1 時間)</p> <p>宿泊: 那覇市中心部</p> <p>注:全員で移動:(各自 1,500 円程度)</p>	
	2/23 (土)	<p>①平和祈念資料館(入館料 300 円)での証言ビデオなどを用いた学習(約 3 時間)</p> <p>②平和記念公園の見学(平和の礎、国立沖縄戦没者墓苑、第 32 軍司令部壕跡、師範健児之塔、韓国人慰霊塔、32 府県の慰霊碑など)(約 2.5 時間)</p> <p>③3日目に学んだことの振り返り(約 1 時間)</p> <p>宿泊: 那覇市中心部</p> <p>注:全員で移動:(各自 2,500 円程度)</p>	糸満市
	2/24 (日)	<p>①沖縄南部(特に糸満市)の戦跡や施設の訪問(約 8 から 9 時間)</p> <p>(予定訪問先)</p> <p>糸数アブチラガマ(入場料 250 円)、南風原文化センター(水曜休館)(入館料 300 円)、旧海軍司令部壕(入場料 440 円)、喜屋武岬(沖縄戦最後の激戦地の一つ)、ひめゆり平和祈念資料館(310 円)、ひめゆり学徒隊散華の跡(荒崎海岸)</p> <p>注:ガマへの入壕に際して、各自懐中電灯、軍手を用意すること。</p> <p>②4日目に学んだことの振り返り(約 1 時間)</p> <p>宿泊: 那覇市中心部</p> <p>全員での移動:ジャンボタクシー代:全員で約 3 万円(5 名の場合:各自約 6,000 円、7 名の場合:各自約 4300 円)</p>	糸満市
	2/25 (月)	<p>①辺野古(普天間基地の移設先)を訪問し、現地の状況を視察。反対派の人達に反対運動を続ける理由などについて聴き取り調査を実施。(5 時間)</p> <p>②5日目に学んだことの振り返り(1 時間)</p> <p>宿泊: 那覇市中心部</p> <p>全員での移動:那覇市~辺野古(バス片道:約 100 分、各自約 2,700 円、往復:各自約 5400 円)</p>	名護市
	2/26 (火)	<p>①東アジア最大の米空軍基地である嘉手納基地が立地する「基地の町」である沖縄市(コザ)で基地の影響について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後文化資料展示室ヒストリートでのコザの歴史学習(1 時間) ・ガイドによる沖縄市の街案内(嘉手納基地の展望などを含む)(約 2 時間)(謝礼:各自 2,650 円) 	沖縄市

Subject / 科目	
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ
2017 年度カリキュラム	APM フィールド・スタディ
申請可能セメスター	3~7 セメスター*詳細は募集要項をご覧ください。
プログラム名	沖縄から考える戦争と平和 (総田 芳憲)

	<ul style="list-style-type: none"> ・軍用地主による講話(約 2 時間)(謝礼:各自 2,160 円) ②6 日目に学んだことの振り返り(1.5 時間) ③沖縄市から那覇市へ移動(到着見込み:18 時頃) 全員での移動:往復:各自 3,000 円程度) 注:実習終了後、沖縄を発つ日時は各自の任意。 <p>注:天候や講師の都合などにより、予定に変更が生じる場合あり。講師の変更があった場合には、講演料も変わる可能性あり。運賃や入場料が変動する可能性もある。</p> <p>[事後授業]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">3/6(水)</td> <td style="width: 25%;">3、4、5 限</td> <td style="width: 50%;">実習を通じて考察したことの発表と質疑応答</td> </tr> </table>	3/6(水)	3、4、5 限	実習を通じて考察したことの発表と質疑応答
3/6(水)	3、4、5 限	実習を通じて考察したことの発表と質疑応答		
16. 成績評価方法 Method of Grade Evaluation	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前授業での課題:20% 2. 実習日誌(その日の実習で調査、検討したことを記載):40%(8%×5 日) 3. 事後授業での発表:15% 4. 最終レポート:25% 			
17. Requirements for students. 学生への要望事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現地の天候に適した服を持参すること。 2. 動きやすい服装、運動靴を着用すること。 			
18. Textbook /教科書	<p>櫻澤 誠 『沖縄現代史』中央公論新社<中公新書>、2015 年</p> <p>沖縄タイムス社編集局編『これってホント!? 誤解だらけの沖縄基地』高文研、2017 年</p>			
19. Further readings 参考文献	<p>NHK スペシャル取材班『NHK スペシャル 沖縄戦 全記録』新日本出版社、2016 年</p> <p>大田 昌秀 編 『決定版 写真記録 沖縄戦』高文研、2014 年</p> <p>新崎 盛暉 『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店 <岩波新書>、2016 年</p> <p>宮城 大蔵、渡辺 豪『普天間・辺野古 歪められた二〇年』集英社 <集英社新書> 2016 年</p> <p>阿部 岳『ルポ 沖縄 国家の暴力: 現場記者が見た「高江 165 日」の真実』朝日新聞出版、2017 年</p> <p>ヨハン・ガルトウング『日本人のための平和論』ダイヤモンド社、2017 年</p> <p>宮川徹志 『僕は沖縄を取り戻したい 異色の外交官・千葉一夫』岩波書店、2017 年</p> <p>前泊 博盛 編著 『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』創元社、2013 年</p>			
20. Others / 上記以外	適宜、授業で文献などを紹介する。			
21. Notes/その他	<ul style="list-style-type: none"> • 募集人数: 7 • 最少実施人数: 5 • 派遣地域安全情報: レベル 0 			